

学校法人北海道尚志学園
北海道自動車短期大学
機関別評価結果

平成23年3月24日
財団法人短期大学基準協会

北海道自動車短期大学の概要

設置者	学校法人 北海道尚志学園
理事長名	西 安信
学長名	能戸 正
ALO	汐川 満則
開設年月日	昭和28年4月1日
所在地	北海道札幌市豊平区中の島2条6-2-1

設置学科及び入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
自動車工業科第一部		200
自動車工業科第二部		50
	合計	250

専攻科及び入学定員(募集停止を除く)

専攻科	専攻	入学定員
専攻科	自動車工学専攻	20
専攻科	車体工学専攻	20
	合計	40

通信教育及び入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

北海道自動車短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていることから、平成 23 年 3 月 24 日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成 21 年 6 月 30 日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次のとおりである。

当該短期大学は昭和 28 年、全国に先駆けて自動車整備士養成という社会の要求にこたえて開設された。設立経緯に基づいた建学の精神を「尚志」、教育理念を「進取不屈」という言葉で明示している。また、それらに基づいた教育目的・教育目標を、授業印刷物などをつうじて学生や教職員に周知し、自らの掲げる建学の精神と教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて鋭意努力している。

教育内容については、自動車整備士資格取得のために必修科目が多く開設されており、少人数クラス編成や習熟度別クラス編成等、改善への意欲は十分である。授業内容、教育方法の改善は FD 委員会や授業アンケートにより、学生にフィードバックされている。

教育の実施体制については、専任教員数及び校地・校舎面積は短期大学設置基準を充足しており、講義、実習室等の教室は十分な数と設備を整えている。購入図書等選定システム・廃棄システム・図書検索システムのサービス体制は十分である。

教育目標の達成度と教育の効果については、在学生、卒業生、企業からアンケートをとって授業や教育体制の改善に役立てており、その結果は高い資格合格率に表れている。

学生支援については、習熟度別クラス編成で必修科目を開講している。また、「出席管理システム」の導入により、欠席者に対する早期指導を行っている。

研究については、研究室・研究設備は整備され、教員らが研究成果を発表する機会確保されている。また、外部研究資金への申請も行われている。意欲的な教員に対し、研究支援が行われている。

社会的活動については、環境問題をテーマとしたイベント等へのボランティア活動を、社会について学生に考えさせる教育方法の一つと位置付けて支援している。

管理運営については、理事会、教授会、各種委員会、事務組織等、諸規程に基づき適正に運営され、「事務局スタッフ・ディベロップメント活動規程」が整備されている。また、「自己研鑽費用の助成制度」が開始されている。

財務については、短期大学部門の消費収支にやや課題があるが、余裕資金は十分にある。短期大学に必要な施設設備は、整備されている。また、省エネルギー推進委員会を設置し、エネルギー使用の合理化の推進に努めている。

改革・改善については、自己点検・評価を実施するための規程が定められ、それに基づき具体的活動を担う各種委員会が設置され、平成10年以降に自己点検・評価及び相互評価を実施し、報告書を公表している。

2. 三つの意見

本協会の評価のねらいは、短期大学教育の継続的な質の保証を図り、加えて短期大学の主体的な改革・改善を支援して、短期大学教育の向上・充実に資することにある。そのために、本協会の評価は、短期大学評価基準に基づく評価、すなわち基準評価的な性格に加え、短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する評価、すなわち達成度評価的な性格を有する。前述の「機関別評価結果」や後述の「領域別評価結果」は短期大学評価基準に従って判定されるが、その判定とは別に、当該短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する観点から、本協会は以下の見解を持つ。

(1) 特に優れた試みと評価できる事項

高等教育機関として短期大学が有すべき水準に照らしたとき、本協会は、当該短期大学の取り組みのうち、以下に示す事項については優れた成果をあげている試みや特に特長的な試みと考える。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 「授業計画（シラバス）」の評価方法では、知識力、応用力、展開力の区分ごとに評点のウェイトを明記している。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 学習支援では、必修科目「自動車の数学」において習熟度別クラスを編成し、習熟度の低い学生には補習を義務付けている。
- 平成21年度より「出席管理システム」を導入して、すべての開講科目の出欠を授業終了日当日に、学内LANをつうじてクラス担任に伝え、欠席者に対し早期の指導を実施している。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- 北海道ならではの行事、「世界ラリー選手権・ラリージャパン」及び「ラリー北海道」に、毎年ボランティア・オフィシャルとして学生が参加している。

評価領域Ⅷ 管理運営

- 「事務局スタッフ・ディベロップメント活動規程」が制定され、「自己研鑽費用の

助成制度」がある。

評価領域IX 財務

- 省エネルギー推進委員会を設置し、CO₂排出の調整を行っている。

評価領域X 改革・改善

- これまで2回相互評価を実施している。さらに今後は、相互評価は3ヶ年ごとに実施する自己点検・評価の翌年に実施し、外部評価は相互評価の翌年に実施する計画である。

(2) 向上・充実のための課題

本協会は、以下に示す課題などについて改善がされれば、当該短期大学の教育研究活動などの更なる向上・充実が期待できると考える。なお、本欄の記載事項は、各評価領域（合・否）と連動するものではないことにご留意願いたい。

評価領域VI 研究

- 教員に対する研究（研修）日の確保が望まれる。

評価領域IX 財務

- 財務については、余裕資金はあるものの、短期大学部門が支出超過であるので改善が望まれる。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

以下に示す事項は、問題・課題などが深刻であり、速やかな対応が望まれる。

なし

3. 領域別評価結果

各評価領域の評価結果(合・否)を下表に示す。また、それ以下に、当該評価領域を合又は否と判定するに至った事由を示す。

	評価領域	評価結果
評価領域Ⅰ	建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ	教育の内容	合
評価領域Ⅲ	教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ	教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ	学生支援	合
評価領域Ⅵ	研究	合
評価領域Ⅶ	社会的活動	合
評価領域Ⅷ	管理運営	合
評価領域Ⅸ	財務	合
評価領域Ⅹ	改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

全国に先駆け昭和 28 年に北海道の地で自動車整備士養成という社会の要求にこたえて開学した来歴を、建学の精神として「志を高く、志を尊ぶ」という意味の「尚志」、教育理念として「自ら進んで物事に取り組み、どんな困難にぶつかっても意志を貫く」という意味の「進取不屈」に込めて伝承している。それらの建学の精神と教育理念は、学生便覧、授業計画（シラバス）、学校案内、ウェブサイト等に字義の説明とともに掲載されている。

平成 19 年度に建学の精神や教育理念についての見直しを実施されたが、このままで良いという結論に至っている。教育目的は学則の中で定められ、学科・専攻ごとの教育目標は自動車整備士資格取得に関係付けて定められ、適切な方法で学生と教職員に周知されている。また、教育目的・教育目標は、「自己点検・評価委員会」で定期的に点検され、重要事項に関しては、理事会において審議決定されている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

学科・専攻とも自動車整備に関する資格取得を教育目的・教育目標の大きな柱に据え、それに対応した授業形態、必修・選択科目の配分、クラス規模、専任教員の配置、卒業要件が整備され、十分な内容・レベルを備えた専門教育が行われている。ただし、一般教育科目が少なく、必修・選択の別では必修に偏りがあり、学生の科目選択の自由度は低い。

学生への履修指導は、事前に「授業計画（シラバス）」を配布し、クラス担任によって行われている。「授業計画（シラバス）」の評価方法では、知識力、応用力、展開力

の区分ごとに評点のウェイトを明記している。

授業内容、教育方法の改善には、FD委員会を設置し、組織的に取り組んでいる。

学生による授業アンケート調査が定期的に行われ、その結果は担当教員にフィードバックされ、授業改善に役立てられている。専任教員間、専任・兼任教員間での調整・協力もなされている。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

教員数、教授数は、短期大学設置基準を充足し、教員（助手、技師を含む）25人中10人が一級自動車整備士の資格を有しているなど、教員としてふさわしい資質を備えている。

校地・校舎面積は、短期大学設置基準を充足している。校地・校舎等は学生や教職員の安全性に配慮され、教室は授業を行うに十分な設備が備わっている。図書館の蔵書数、学術雑誌数、AV資料数及び座席数等は、在籍学生数に比し適当である。図書館の広さ、環境、将来の蔵書数の増加への備えも十分であり、購入図書等選定システム・廃棄システム・図書検索システムも確立している。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

学科、専攻科とも自動車整備に関する資格取得を目指しており、それに対応した教育活動（単位認定、成績評価、アンケート調査による学生の満足度の把握等）が適切に展開されている。その成果は高い資格合格率に表れている。自動車工業科第一部の退学・休学者に対して、学長等も、その防止を最重要課題として受け止めている。就職先、編入先、卒業生（同窓会）からの意見聴取がされており、学生の卒業後評価への取り組みに努力している。編入学については、併設大学への編入が大部分を占め、年度初めに当該大学との単位認定の打ち合わせなどが行われている。

評価領域Ⅴ 学生支援

入学に関する支援では、系列校入試、指定校推薦入試、公募推薦入試、アドミッション・オフィス（AO）入試及び一般入試と、多様な選抜方法が準備されている。

学生生活に関しては、少人数クラスの担任と学生相談室のカウンセラーとが連携して学生をサポートしている。

学習支援では、必修科目「自動車の数学」において習熟度別クラスを編成し、習熟度の低い学生には補習を義務付けている。平成21年度から「出席管理システム」の導入により、クラス担任による欠席者に対する早期指導を行っている。

また就職支援では、「キャリアデザインⅠ・Ⅱ」を開講し、更に「自動車工学演習Ⅰ～Ⅲ」を必修科目とし、各クラス担任が担当し、学生に対し継続的にきめ細かな指導・助言を行っている。

評価領域Ⅵ 研究

研究業績にはやや課題があるものの、教員は様々な教育活動に加えて種々の業務などに携わりつつも、意欲的に研究活動を展開している。研究時間が一様に確保できているとはいえないが、学位取得を目指す教員に対しては、授業の時間数や校務の負担を軽減するなどの配慮を行っている。

研究費は十分ではないが、研究室・研究設備は整備されている。さらに学内組織である「交通科学総合研究所」では、意欲的な教員に対し、エントリー制度をつうじて研究支援を行っている。

評価領域Ⅶ 社会的活動

「中の島魅力ある町づくりの会」の事業委員を担当し、同会が主催した「中の島再発見の旅」では、約 30 人の近隣住民を当該短期大学の施設見学やクラシックカー見学に受け入れるなど、地域社会との交流や連携を推進している。また、「世界ラリー選手権・ラリージャパン」及び「ラリー北海道」に、毎年ボランティア・オフィシャルとして学生が参加している。

評価領域Ⅷ 管理運営

当該学校法人によって設置されている大学、短期大学、高等学校等の連携や情報の共有化、相互支援などが、学園運営協議会によって適切に運営されている。また、当該短期大学と学校法人との連携体制も強固に行われている。

また、「事務局スタッフ・ディベロップメント活動規程」が制定され、「自己研鑽費用の助成制度」がある。

評価領域Ⅸ 財務

財務運営は事業計画を中心に適切に行われている。財務体質は、短期大学部門が 3 ヶ年連続で支出超過となっており、学校法人全体においても平成 21 年度について支出超過となっている。しかし、余裕資金は十分に保有している。

短期大学に必要な施設設備は、整備されている。また、省エネルギー推進委員会を設置し、エネルギー使用の合理化の推進に努めている。

評価領域Ⅹ 改革・改善

自己点検・評価、相互評価、第三者評価、外部評価を実施するために「評価規程」、「自己点検・評価委員会規程」及び「外部評価委員会規程」が定められており、それに基づき自己点検・評価に関する具体的活動を担う「自己点検・評価委員会」が設置されている。自己点検・評価活動は平成 10 年度以降通算 5 回目となり、それらの結果

は関係機関へ公表されている。全教職員が「自己点検・評価委員会」を中心とした自己点検・評価活動にかかわり、評価領域・評価の観点ごとに学内組織で担当部署を決め、各部局や常設委員会に協力を依頼して個々の点検・評価を行っている。

外部評価は実施されていないが、相互評価については平成 11 年度と平成 18 年度の 2 度にわたり大阪産業大学短期大学部との間で実施されている。それらの結果は報告書にまとめられ、関係機関及び教職員に配布されている。